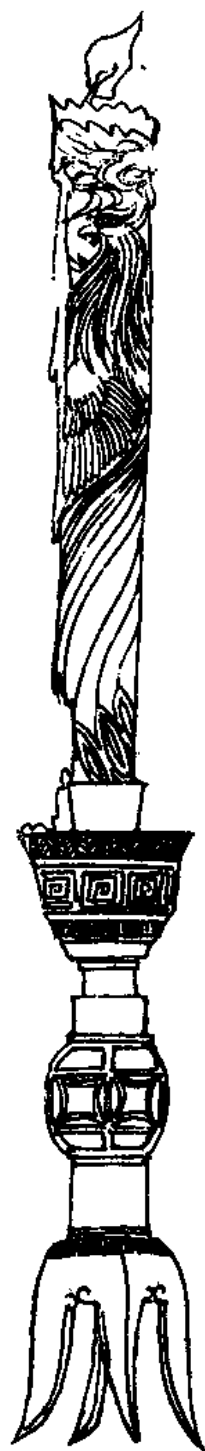


庚戌仲春

國立北京大學
中國民俗學會
民俗叢書

莊嚴題端



扉頁說明

扉頁書名題字，係前任中國國立故宮博物院副院長莊嚴教授的瘦金體手筆。

字旁狹長插圖兩式：一為旗桿；一為燭臺；前者象徵高官晉爵；後者象徵子孫繁昌；兩者如今已成為上代保存之物，特煩當代畫家陳海虹氏寫真垂遠。

古越婁子匡謹識

五九年三月

動物寓言與植物傳說 目錄

序 文

一、動物寓言的搜錄……… 1

二、序……… 海東逸史……… 1

動物寓言

古來能通鳥獸語人物……… 3

人禽關係……… 6 子貢……… 11

共訴不平……… 6 多子……… 11

和蟲……… 8 反……… 11

聖妻……… 9 照……… 12

奉	開	冒	饒	效	當	忠	旌	百	善	責	縱
承	唐	籍	言	人	今	於	孝	善	為	成	子
得	天	人	自	風	之	賦	強	為	貽	家	為
食	下	種	害	駿	世	務	逆	先	謀	長	盜
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
20	19	18	18	17	16	15	14	13	13	13	12
練	敗	露	不	甯	通	奴	哄	有	烟	甘	相
習	行	出	成	食	語	隸	人	自	可	心	爭
洋	罹	馬	人	措	聯	犧	臨	由	過	淡	老
操	罪	腳	樣	糠	宋	牲	阱	權	癘	薄	大
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
26	26	25	25	25	24	23	23	22	21	21	20

對	過	拜	嘉	景	賞	罰	小	降	自	嫂	尊
作	年	把	興	氣	戴	彼	醜	生	顧	私	稱
為	酒	為	人	愈	花	為	傳	下	身	盟	別
龜	令	吃	：	：	：	：	道	界	份	弟	號
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
33	33	32	32	31	31	30	29	28	28	27	27
煩	惡	總	心	肉	死	一	抵	持	要	叮	撞
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
惱	毒	你	很	毒	錢	拔	債	騙	重	卵	席
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
38	38	37	37	36	36	36	35	35	35	34	34

漁	人	得	利	42	智	過	於	人	48
不	可	復	出	42	不	可	與	友	47
不	得	自	由	41	公	舉	默	王	47
人	誠	聰	明	41	逃	生	無	路	46
何	能	為	人	41	開	大	舍	議	46
物	資	資	用	40	自	食	其	力	46
嗜	酒	喪	軀	40	互	相	詒	辭	44
善	自	為	謀	40	夙	流	韻	事	44
愛	業	失	敗	39	物	以	計	取	44
祝			壽	39	善	能	讓	步	43
有	錢	誇	口	39	顧	此	失	彼	43
鑽	法	修	繕	38	旅	習	相	抵	42

聰

福

歌

48

同

類

相

殘

53

難

瞞

慧

眼

48

決

則

易

摧

53

驕

心

必

敗

49

心

術

已

壞

54

滋

苗

自

述

49

人

未

可

恃

54

養

成

懶

漢

50

獨

不

知

足

55

卵

翼

小

人

50

死

不

受

辱

55

小

能

制

大

51

貪

者

必

貧

56

賈

友

求

生

51

傲

慢

取

辱

56

過

聽

婦

言

51

小

醜

獲

益

56

人

不

見

重

52

龐

大

無

能

57

韋

災

樂

禍

52

慎

終

於

始

57

藥

先

自

醫

53

有

思

必

報

57

見	訓	非	設	假	誦	不	貪	恃	新	積	不
機	練	親	餌	鑒	之	率	食	才	王	穀	蓄
而	在	莫	臨	謀	為	子	喪	自	約	防	所
作	時	親	人	活	害	弟	命	誤	衆	饑	避
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
62	62	61	61	60	60	60	59	59	58	58	58
權	欲	愛	談	五	放	錯	仰	以	要	反	妄
大	加	行	論	終	底		息	為	求		為
利	之	偏	滋	榮	食		他	敬	平		可
多	罪	路	味	耀	糧	刺	族	己	等	側	靠
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
68	68	67	66	66	65	65	64	64	63	63	63

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

動物寓言的搜錄（代序）

婁子匡

我在大陸從事民俗學和俗文學書刊的出版和發行的時候，就從和日本底民俗學界交換書刊之中，知道在臺灣調查、記錄、研究祖國底民俗學資料的同工們底消息，却無從讀到他們底作品，而韓國民俗學人底研究或是記錄的作品，却容易讀到。所以當時的大陸和臺灣的民俗學界是互相隔絕的，彷彿學術工作有界線而被分開了。自從臺灣光復以後，和我們遷居來到臺北，那就發現曩昔的臺灣民俗學界和大陸的，却不相同：在日據時代臺灣底民俗學同工們，却早在間接的從日本底民俗學園地上，儘量搜尋祖國底資料，加以日譯而發表，例如臺籍學人以日本式的筆名——三島格氏從拙作「中國新年風俗志」中，挑選「閩南的新年」記錄，加以日譯而後發表在創刊不久的「民俗臺灣」上。還有別的學人，他們專心在中國古文書裏找類似的資料，有的加以轉錄；有的據以

重寫；不是用日文，而是仍舊用祖國底文字來編印出版的，例如臺中學人江介石氏所編著的以動物寓言爲主的故事集——趣味集。這是我特別感覺興趣的，在日據時代問世的一本民俗學資料集。

說來奇怪，彷彿是一種緣法所使然的：我於民國三十八年遷來臺北，先就定居於牯嶺街；後來移住到同安街。時常途經舊居，看見那條街上，突然增開幾家出賣舊書的舖子；以後又增加每逢星期天擺設的舊書攤；在那裏，盡够那書獸子們盤桓幾小時而樂得忘記回家去進膳呢！有一天，我又擠入了獸子之林，竟能如獲至寶的發見了這一本初次觀面的「趣味集」。

我儘快的拿起這本書來翻，封面是早被撕去，而代以一張日本式的空白估價單；可是扉頁還是完整，上面是石印印着三行大小勻稱的正楷漢文：中間是「趣味集奇談」；右側是「臺灣江介石著」；左側是「上海千頃堂石印」。我一看便想立刻知道的，是此書出版的時日，便馬上翻到最後一葉「版權之頁」，那裏印的是「昭和 年 月 日印刷」，「昭和 年 月 日發行」，沒

原
书
缺
页

輯本書的旨趣，並非同作如是觀，而是別有用心，這在篇首的序文裏可見一斑，我把牠節錄幾段如下：

「近代人文進化，思想新奇，怪誕詞章、風流說部，層出不窮，大都矜奇炫異，矯俗鳴高，祇騁筆勢之縱橫；不顧人心之陷害；求其宗旨純正，堪以覺悟世情，不致貽敗風俗者，則百不得一焉。」

「茲以『趣味集』則異是，內中分爲二類：一、禽獸問答，曰『奇譚』；

一、滑稽詞句，曰詩話。縱係昔時之譚語，誠爲近世之良箴。文雖出於談諧，意實存乎規諷。凡嬉笑怒罵、悲泣歡歌，俱有微意寓於其間，讀之能令老嫗解頤；懦夫立志；怪客者解囊；輕狂者斂抑；則其中之趣味，真有不可思議者。

「偶披而閱之，似平淡無奇；再讀之，漸漸引人入勝，比看到興味處，自不覺拍案狂呼叫絕，將半生滿腹不平之氣，頃刻間都消盡矣，爽快爲何如也！況譏嘲笑罵，皆出自禽獸，於我何尤？所謂言者無罪，聽者知誠，祇求如是而已。」

江氏所搜記的動物寓言，我把牠們應用近代著聞於世的湯淺生氏民間故事研究方法，便可以歸納爲十五個構成部份如下：

第二、是由中國底動物成語而引伸寫成爲動物寓言的，如以「恃才自誤」爲題的「龜兔競走」；「漁人得利」爲題的「鷸蚌相爭」；「誑之爲害」爲題的「大呼狼至」；「反側」爲題的「蝙蝠投機」；「不可與友」爲題的「山中遇熊」；「開大會議」爲題的「鈴蟻貓項」；「物貴實用」爲題的「鹿角硬樹」；「奉承得食」爲題的「談狐談鵝」等等，試以「恃才自誤」爲例，一讀原文便覺江氏下筆栩栩如生呢：

「兔晒龜曰：『爾縮其足，而行整肅，狀態甚醜。』龜曰：『爾自誇行如御風，然賭行遠，或不吾勝也？』兔大笑曰：『可試之，方見勝負。』乃示龜以途徑，立表於高山三里之上，樹一幟以爲之的；延狐爲公道人；約先及表者勝。於是龜兔咸舉足而行，龜自知行緩，竭力向表而進，不敢少休，未幾至目的地，見兔未至，始少憩於樹陰之下焉。兔則自信行疾，一躍三尺，終龜無能

爲；行至中途，假寐於道側，以爲寢一醒，而龜仍未至也。詎知既醒追龜，而龜已先至，睡餘時矣。（吁！世之聰明自恃者，恒無成，終不若魯鈍能自勉者之日進有功也。）

第二、也是引用中國有關動物的成語，却把內容和主角改變了，再寫成動物寓言，如以「露出馬脚」爲題的「驢蒙獅皮」，這是從「狐假虎威」改寫而成的；又如以「小醜獲益」爲題的「獅熊爭羔」，實爲「鷸蚌相爭」的改作，試舉此例抄原文如下：

「獅與熊爭山羊之羔，大鬬，疲極而息，遺羔於道旁。有狐往來偵之，見二獸猛鬬疲憊，相距而臥，知其創甚，病不能興，乃疾進取羔而去。獅與熊眼睜睜視之，心雖不甘，奈力盡筋疲，蜚身莫起，相顧而嘆：「語云：『鷸蚌相爭，魚人得利』，兩雄相角，小醜獲益，斯言信不誣也。」

第三、是從一般性的成語，創作而成爲動物寓言，如「讒言自害」寫成了獅和猴、狐的故事；「卵翼小人」寫成雉鷄蛇卵的寓言；後者試讀原記如後：

「雉雞母，羨他雉育雛成羣，而已尚未有，心甚憾焉。後見蛇卵，誤爲他雉之遺也，取而伏孵焉。垂出矣，飛鷹見之，而語雉母曰：「愚哉！爾乃爲蛇伏乎？彼雛出，將害人，尤必先及於汝矣。」（噫，世之庇護小人，終爲小人所陷害者，屢見不一，可勝慨哉！有意憐才者盍慎諸！）

第四、是就動物底形態，本能和動作而演譯寫成警世的寓言，如以蟹底橫行而寫成「照樣行」；以兔的不能升樹和入水却會掘穴而寫成「善自爲謀」；前者寫成生動故事如下：

「老蟹一日在沙灘上，見蟹子側身橫行，噴沫叱曰：「唉，君子直道而行，爲世人所稱頌，汝詎不聞乎？今如此橫行，成何體態？寧不爲世人所笑耶！」蟹子對曰：「兒子生來即如此，今欲改直趨，請父親先行一款，爲兒子看樣。」老蟹舉螯而行，依然是橫，頻頻反動，都不能直。蟹子顧而笑曰：「阿爺無好樣，莫怪兒子，是照父樣所行也。」

第五、是就動物底恐懼心理，幻想牠們會由恐懼而轉爲羨慕，甚至自願蛇